

同窓会の活性化に向けて

浅野学園同窓会副会長 石崎 廣矣 (15期)

一万有余の卒業生を輩出し、間もなく創立80周年を迎えようという歴史と伝統を誇る学園でありながら、これまでの同窓会活動は、正直申し上げて、精彩に乏しく、“会員相互の親睦を図ると共に学校の発展に寄与する”という会の目的の達成には程遠い、名前ばかりで実際的な活動を伴わない状態が続いていた。

しかし、現同窓会長の石山延雄先生が学校長に就任されて以来、本会の現況を憂慮され、事あるごとに「同窓会を何とかしなければならない。特に少子化がますます進む将来にあって、学校の発展は同窓会を無視しては考えられない」ということを強調なさって会の活性化に腐心されたのである。さらに校長職を退任されてからは、自己の責任で現状を打開しようと平成8年度の総会で発議、提言され、すぐに活性化のための委員会を置いて委員（文章末尾記）を委嘱。ここに石山会長念願の“同窓会活性化”の第一歩が踏み出されることになったのである。

本会を活性化するためには、第一に、当然のことながら、全会員を大切に、常に会員のために会は何をなすべきかを考えねばならない。会員一人一人が自分の会だとの意識を高めてくれるような、会員によって愛され必要とされるような会になることを心がけ、会への十分なご理解、ご支援、ご協力を、そして何より、新規約に基づく活性化へのご賛同をいただけるようにしていかねばならない。

第二に必要なことは、会員相互の、特に同期の結束の強化である。本会の基盤である同期会の団結を確たるものにして、活性化を応援していただければ幸甚である。各期の幹事各位のご尽力と併せて、会員諸兄は幹事を中核として一致協力して親睦の輪を広げていただけるよう、ぜひお願い申し上げる次第である。

第三は、年会費納入のお願いである。新規約によって機構が整備され、全会員のために、学校のためにと企画を考えても、資金が不足しては何にもできないことになってしまう。事情をご賢察いただき、ご理解ご協力をお願いするものである。

活性化委員会が約1年をかけて検討し提言した諸方策は、新規約に基づいて決められた新組織に引き継いでその任務を終了したが、今後の活動の中で活性化が実現されることを願いつつ、活性化委員各位のご苦勞に謹んで敬意を表すると共に、本会の弥栄（いやさか）を期待してやまない。

同窓会活性化 委員氏名	会 長 委員 長 員	石 山 延雄 (7)
・ 敬称略	委 員	石崎 廣矣 (15)
・ 卒業期順	学 校	刈部 吉郎 (19)、上杉 政勝 (29)、阿藤 潔 (30)
	顧 問	岡本順太郎 (38)、山口 秀男 (38)、村見 祐弘 (40)
		川下 資文 (45)、齋藤 清紀 (48)、細野 泰彦 (49)
		石川 喜教 [教頭] (31)、
		淡路 雅夫 (40)、酒井 晴雄 (45)、阿部 義広 (46)
		石橋 義史 [学校長] (31)

南に海原、西には高嶺

浅野中学・高等学校長 石橋 義史 (31期)

幹事会の席上やその前後の雑談の折などに、「浅野学園同窓会会報」の発行の件が、これまでしばしば話題に上ってきました。母校の現在の様子や同窓諸氏の活躍ぶりなどを報せるクォータリー的なもの(将来的にはB5版の冊子)——夢は大きくふくらむ一方です。しかし「誰が鈴をつけるのか」という段になると、お互い忙しい身で、なかなかその実現を見るに至らず、計画は宙に浮いたまま、荏苒(じんぜん)、今日を迎えてしまいました。

何人かの篤志家が協力を申し出てくれました。学園の国語科教諭・阿部義広先生もその一人で、学年主任としての激務のかたわら、「まず手作りで創刊することが先決」とばかり、ワープロのキーを叩いて下さいました。大袈裟ではなく、学園の同窓会史上、歴史的なスタートと言うべきでしょう。

ところで先月の3日、慶応義塾普通部創立百周年記念式典に招かれました。「平服のまま、芳志は辞退」という申し出を守って参列してきましたが、式辞は塾長、部長(校長)、同窓会長の三名だけの、至って簡素な、ある意味でスマートな式典で、

式後の祝宴もなく、教えられるところ少なくありませんでした。

当日は夕刻から普通部の同窓会総会が、帝国ホテルで開かれる手はずになっており、大型バス10台が日吉のキャンパスに待機していました。

「50人乗りとして500人、現地直行のOBもいるだろうから……」などと、ひとり呟きながら東横線のホームにしばし佇み、つい先刻、「おお風に鳴るわが旗を」で始まる塾歌を声高らかに歌いあげた普通部OBたちの、母校に対するたぎる思いの余燼を、部外者の身でありながら、私もひとしきり反芻したことでした。

顧みてわが浅野学園は、2年後の平成12(2000)年に創立80周年を迎えることは、すでにご案内のとおりです。激動はてしない時代に伍して、しかし絶えず学園の独自性と建学の精神を見据え、同時に未来への限りない展望の実現を企図しながら、節目の時を迎えるべく、学園内の準備委員会も、先般、発足したところです。愛と九転十起の精神を体現した多くの同窓諸兄と一堂に会し、会場を揺るがさんばかりにともども校歌を歌う日を、今から鶴首して待ち望んでいます。

掲示板

- ① 同窓会へのご意見・ご要望がございましたら、郵送またはファックスで、お送りください。
- ② 『同窓会報』への寄稿をお待ちしております。会報に掲載するという趣旨であれば、ご意見、随想、紀行文、詩歌等何でも結構ですが、掲載量に限りがありますので、400字詰原稿用紙2枚程度でお願いいたします。

[宛先] ㊦ 221-0012

横浜市神奈川区子安台 1-3-1
浅野学園内 浅野学園同窓会 宛

TEL: 045-421-3281

FAX: 045-421-4080

同窓会の今後の展望について

—— 将来を夢見て ——

浅野学園同窓会副会長 岡本順太郎（38期）

同窓会の活性化を目標に、本年度より新規約に基づいて選出された新役員、運営委員により何回かの役員会が行なわれ、新事業計画の立案に努めてまいりました。本総会において会員皆様の賛同を得て、順調に事業が執り行われることを願っております。

作家で、現小渕内閣の経済企画庁長官、堺屋太一氏は、その著書『大変な時代』の中で次のように述べています。

「これからの時代には、人も企業も非成長の時代を上手に生きるノウハウを知らなければならぬ。そこにおいて健全に利益を上げられる経営、そこにおいて幸せを感じる生き方、そこにおいて楽しさを味わえる人生観というものを、我々はつくり出さなければならぬ。／それをそれぞれの好みを持つ人々が入りこめる多様な器として、体系的な社会的心象風景として確立することが、今の日本には求められているのではないだろうか」と。

加えて、

「人々の人生目標が、住宅を建設して子どもたちに残すという建設型、蓄積型の〈職縁社会〉から、好みの情報を持って、自らが納得する人間関係を楽しむ〈好縁社会〉に変わる」と予想しています。

私は、この発想が同窓会活動の中に生かされることこそが、同窓諸兄にとって意義のある同窓会を作り得る第一の要諦と考えます。

同窓会活性化の第一段階 —— 同窓会に対する理解を深めてもらう —— そのための諸事業計画として、①全会員への新規約の配布 ②活動状況を伝えるための広報の発行 ③新聞を利用した総会・懇親会の案内のPR ④会のシンボルマークのデザイン製作（将来、会独自のエンブレム等の製作もできる） ⑤各期の“同期会”の活性化、あわせて同窓会費納入の拡大を図る。さらに、在校生に対する事業としては、①卒業時の記念品贈与 ②卒業時の会長賞授与、打越祭（文化祭・体育祭）での同窓会賞授与 ③クラブ活動の支援 等の事業案が出され、現在検討を重ねています。

その他、すでに例年行なわれている、

・『同窓会名簿』の作成～新卒業生に無料配布、会員の希望者には有料配布

・学園への寄付

を継続してまいります。会員諸兄のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。そして、夢はさらに膨らんでゆくのですが、将来は、学園のご協力で校内の一隅に事務局を置き、専従の事務員を配して、インターネットのホームページを開設し、多彩な事業を実施できる環境を整えたい —— まず、それを目指して、会員諸兄のご協力をいただきながら、より一層の努力をしていきたいと考えております。

年度会費の受領について

平素より同窓会活動へのご理解、お力添えを賜り誠にありがとうございます。総会・懇親会においでいただかず、年度会費をお送りくださった会員の方々から「年度会費を納めたのに領収書が送られてこない」というお叱りを何件か頂戴しました。年度会費につきましては、振込用紙の受領書をもって領収書とさせていただきますので、ご了承くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

諸先輩から広報を担当するよう命じられました。初めての重任で、どうなることかと思いましたが、副会長の石崎、岡本の両先輩、石橋校長先生が快く執筆をお引き受けくださり、ようやく発行することができました。今後とも原稿その他の情報をどしどしお寄せください。皆様のご協力をお願い申し上げます。

追記 …… 創刊号に石山延雄会長のお言葉がないのはどうして、と不思議に思われた会員の皆様も多いと思います。現在、石山会長は病氣療養中のお体のため、原稿のご依頼は編集委員のほうでご遠慮いたしました。次号に執筆いただく予定ですので、ご了解ください。

同窓会報編集委員 古川 高夫 (45期)
" 阿部 義広 (46期)

浅野学園同窓会報・第1号

発行日 平成10年11月14日(土)

発行人 浅野学園同窓会
代表 石山 延雄

発行所 ㊟221-0012
横浜市神奈川区子安台 1-3-1
浅野中学・高等学校
TEL 045-421-3281

編集 浅野学園同窓会報
委員会